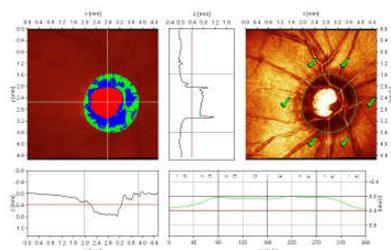


## HRT II（共焦点走査レーザー検眼鏡）

三次元画像解析装置

視神経乳頭を立体的に解析します。

視神経乳頭に集まる神経線維が障害されその数が減ると、視神経乳頭中心の凹み（陥凹）が大きく深くなってきます。緑内障性の陥凹には特徴的な形状があります。行き場のない眼圧が少しでも行きやすい箇所に集中してしまうと、特定の方向ばかりに陥凹が伸びていくことが多いようです。



HRT IIは、レーザーを使用して乳頭陥凹の大きさ・深さ・形状を立体的に測定します。

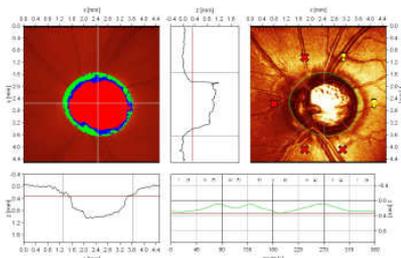
眼底写真では単色で観察の難しい陥凹が、カラーマップで表示されます。

精密な計測と共に、年齢・性別による正常値との

比較も行います。

正常眼 左図－陥凹部が赤で示される

右図－正常値との比較を表示 全て✓（正常範囲内）



また、初回の検査結果と最新の検査結果を比較できます。視神経乳頭の形状は個人差の大きく、それだけですぐに緑内障かどうか判断できない場合も多いのです。しかし、定期的にこの検査を行うことで、微細な変化を知ることができます。

緑内障眼 左図－陥凹部（赤色）の拡大がみられる

右図－×(正常範囲外)！（ボーダーライン）が表示されている

そのため、初期の緑内障の診断だけでなく、緑内障が進行しているかどうかを診断できるのです。

